

	発行者の略号	東書	教出
	書名	新しい社会	小学社会
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫 (7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①概ね良い ①「まなび方コーナー」に資料の読み取り方や調べたことのとまとめ方などの手引きが示されている。体験的に学ぶことで、理解を深めることができる。「ことば」の解説により、他の知識と関連づけていくことができる。 ②学習問題に対し、調べることや調べ方が併せて記載され、それを追究していく形で構成されているため、調べ方やまとめ方が理解しやすい。学習を積み上げていくことで思考力・判断力・表現力等を育成することを考慮している。 ③単元終末の「まとめる」で、意見文やポスター、新聞等でのまとめを提案している。諸産業の課題について住んでいる地域のよさや短所等を踏まえ、これからの在り方について考えていくことができるようにしている。	①概ね良い ①単元の中に「キーワード」を配置。本文中で説明をしつつ、まとめの段階で「キーワード」を再掲、それを用いつつまとめることで、理解を深めるようにしている。 ②単元のはじめに、これまでの学習を生かして学習計画を立てたり考えたりすることを意識付ける記述がされており、見通しを持ちながら問題に向かう力を育てるための工夫がなされている。このスタイルに一貫性があり、そういう意味でも見通しを持ちやすくなっている。 ③単元終末の「つなげる」の部分で学習内容の振り返りと新たな問題を見つけること、また次の学習や自分の生活に生かしていけることを考えさせる工夫をしている。
	(イ) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	・地域学習では地域の特色を十分捉えたつくりになっている。	・地域学習では地域の特色を十分捉えたつくりになっている。 ②「わたしたちの県のまちづくり」箱根寄木細工の技術を受けつぐ人々（P174～175）・4年 ・わたしたちのまちと市（P4～）、はたらく人とわたしたちの暮らし（P42～）、わたしたちの市の歩み（P126～）で横浜市及びその公共施設、スーパー等・3年 ・「水はどこから」（P52～71）で谷ヶ原浄水場など神奈川県を取り扱い・4年 ・「地域に学校をひらく」（P154～155）で神奈川県藤沢市や小笠原東陽の取り扱い・4年
	(ウ) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①小単元毎に「つかむ」→「調べる」→「まとめる」の流れで問題解決的な学習になっている。 ②「教科かんれんマーク」が設定されている。例「米作り→家庭・ご飯の調理」「世界の未来と日本の役割→理科・生物と環境」 ③本文中の太字や難語句を「ことば」として取り上げ、その意味を丁寧に説明している。「まとめる」の段階で「ことば」を一覧にし、活動のヒントにするよう促している。 ④各学年で取り扱いがある。4年「きょう土の伝統・文化と先人たち」で伝統芸能・祭り・先人の偉業等を取り扱う。6年歴史の日本風の文化（国風文化）や室町文化等。 ⑤写真や図を効果的に用いて、実際に調べたり見学したりしたくなるように工夫をしている。「まなび方コーナー」があり、見学の仕方や調べ方について、その都度説明をしている。 ⑥各学年の冒頭に、前年度で学習した内容、巻末に当該学年のまとめが記載されている。6年生は、歴史編と政治・国際編に分かれ、中学校への接続のイメージが持ちやすい。 ⑦各種統計に出典が示されており、資料にあたる事が可能。「Dマーク」があり、インターネットを利用して学習を進めることができる。 ⑧「ことば」の項目は平易な日本語で表記されており、意味が分からないことが壁になる児童には大きな助けとなる。写真やグラフ等が大きく示されている。「ドラえもん」を登場させることで、児童は親近感をもちやすい。UDフォントを採用している。 ⑨学びのスタイルや記号の形、色等を揃えることで、児童が学習の流れを理解しやすい。また会話形式でヒントが示され、考える際の助けとなっている。	①1単位時間毎の学習が見開きで展開され「問い」→「つなげよう」の流れで問題解決的な学習になっている。（単元全体の流れも「つかむ」～「まとめる」になっている。） ②「他の教科とのかかわり」の項目が設定されている。（中学年の冒頭） ③「キーワード」が設定されており、本文中に説明がされている。また「まとめる」でキーワードの一覧が示されている。 ④各学年で取り扱いがある。4年「地域で受けつがれてきたもの」で祭り・伝統芸能、先人の偉業等を取り扱う。6年歴史の日本風の文化（国風文化）や室町文化等 ⑤写真や図を効果的に用いて、実際に調べたり見学したりしたくなるように工夫をしている。3年生の巻末に「社会科ガイド」がついており、見学の仕方や調べ方を詳細に記載している。 ⑥「前の学年をふり返ろう」や「6年生の学習をふり返ろう」のページで、学年間や学校段階間を意識した構成になっている。 ⑦「まなびリンク」といった独自のウェブサイトを設け、内容に合わせてそこへのアクセスを促す表示がなされており、ICTの活用が図られている。調べ方であたるべき資料や施設が示されている。 ⑧UDフォントの採用や色覚等の特性を踏まえた配色やレイアウト等により学びやすい構成や表記となっている。本文の情報を抑え、必要に応じてそれ以外の資料をもちいることができるようにしている。 ⑨学びのスタイルを揃えることで、児童が学習の流れを理解しやすい。教科書に登場する児童の会話形式で展開されることが多く、理解しやすいと考える。
(エ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね良い。（5・6年は分冊にしている。） ②折りたたみのページで、大きな図表から読み取りや比較ができるよう工夫されている。（6年縄文・弥生、4年都道府県と特産品、3年スーパーマーケット等） ③写真・イラスト等の資料に番号がふられており、教師が示しやすく、児童も探しやすい。	①概ね良い。 ②折りたたみのページがやや多く、児童の理解にもつながりやすい。（6年年表、5年自然災害、4年都道府県と特産品・祭り等） ③写真・イラスト等の資料にカタカナがふられ、教師が示しやすく、児童も探しやすい。（カタカナの色・字体を周囲と変えることで目立たせている。）グラフの掲載には他教科での学習を考慮している。	
イ 教科・種目別の観点	①社会的事象に関する基礎的な知識や技能などを習得させるための工夫や配慮がなされているか。	①各単元の最後が学習問題を踏まえた「まとめる」となっており、大切な「ことば」や「まとめ」の例等を記載している。振り返りを充実させることで知識等を習得させる工夫をしている。 ①中学年の一部で「わかったこと」を記載している。1時間の学習のまとめということで、児童にも教員にも分かりやすい。 ①「学び方コーナー」により、グラフの読み方や表現の仕方が容易になり、調べ方・まとめ方等の技能が身に付きやすい。	①各単元の最後が学習問題を踏まえた「まとめる」となっており、「キーワード」や学年によって「まとめ」の例等を記載している。中学年では「まとめ」を板書や表・図で示し、知識を整理している。高学年では「まとめ」に記述や穴埋めを採用し、知識等を習得させる工夫をしている。 ①「学びの手引き」により、グラフの読み方や表現の仕方が容易になり、調べ方・まとめ方等の技能が身に付きやすい。3年生巻末の「社会科ガイド」も調べ方・見学の仕方等を理解しやすい。
	②社会的事象について児童が多面的・多角的に考えられるような工夫や配慮がなされているか。	②「つかむ」の場面で、様々な立場の人の意見をもとに学習問題が設定されるつくりになっている。 ②「調べる・まとめる」の場面でも児童が気付きにくい視点を示している。 ②「いかす」では関連資料や新たな視点を示し、視野を広げるような工夫をしている。 ②6年生の「日本の政治や暮らし→歴史→世界の中の日本」という構成は視野を広げる上で有効である。	②様々な立場の人及び複数の児童の意見を伝える場面が設定されており、多くの視点で物事を捉えることができる。 ②中学年では「つなげる」の場面で話し合い形式を多く取っており、そこで様々な立場の人の考えを整理するようしなかけをしている。他の人の考えと自分の考えを調整する場面もある。 ②6年生の教科書の冒頭でオリンピックとパラリンピックを扱うことで、インクルーシブの視点を持つことができる。「日本の政治や暮らし→歴史→世界の中の日本」という構成も視野を広げる上で有効である。
	③学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	③「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習のサイクルが単元を通して一貫しており、児童がどのように学びを進めていけばよいのかイメージがしやすい。「ひろげる」のコーナーが発展的であるが、主体的な学びや、選択での学び等を保障している。	③3年生の冒頭が、児童の関心を踏まえ主体的に学ぶことを推奨するようなつくりになっている。それ以降も児童の思考の流れを踏まえ、選択式で追究するスタイルが設定されている。 ③「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる（ひろげる）」という学習のサイクルが単元を通してある程度一貫しており、単位時間ごとの問いが明確に示されているとともに、「次につなげよう」の記述により、児童が学習のつながりを意識できるよう配慮されている。

	発行者の略号	日文	
	書名	小学社会	
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①概ね良い	
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①「学び方・調べ方コーナー」に資料の読み取り方や調べたことのもまとめ方などの手引きが示されている。体験的に学ぶことで、理解を深めることができる。「むずかしい言葉」の解説により、他の知識と関連づけていくことができる。 ②3年生の町調べから、その地域の農業や工業について考える場面等、地形や交通網等を無理なく関連づけて考える構成が随所に見られる。学んだことをつなげていくスタイルが思考力や判断力の育成につながる。 ③単元の最後に地域住民や消費者としての立場で考える場が設定されていることが多い。また「さらに考えたい問題」や「わたしたちの学びを生かそう」のページでこれからの諸産業や私たちの生活の在り方について考えている。	
	(4) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	・地域学習では地域の特色を十分捉えたつくりになっている。 ①「村の立て直しにつくす」(P152～153) 二宮金次郎・4年 ・電力の地産地消・かまぼこ工場(P278)・5年	
	(ウ) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①小単元毎に「疑問をみつける→調べる→まとめる→伝える(交流)」という学習の一連の流れが設定されていることが多い。学習計画が具体的で、まとめの部分も分かりやすく工夫されている。 ②「学び方・調べ方コーナー」で調べ方や伝え方、グラフの読み取り方、器具の使い方等が示されており、他教科等との関連が図られている。 ③「キーワード」が設定され、平易な言葉で分かりやすく説明している。太字やキーワードについてまとめの話し合い例でふれられていることがある。 ④各学年で取り扱いがある。4年「くらしの中に伝わる願い」で古くから残る建物や祭りを、「地いきの発てんにつくした人々」で先人の偉業を取り扱っている。二宮金次郎もここで取り扱われている。 ⑤写真や図を効果的に用いて、実際に調べたり見学したりしたくなるように工夫をしている。「学び方・調べ方コーナー」で、調べ方について分かりやすく説明をしている。 ⑥6年生の教科書の最後に「中学校では、どんなことを学ぶのかな」のページが設定され、中学校への見通しを持つことができる。各学年の冒頭に今までの学習とこれからの学習をつなぐページがある。 ⑦「デジタルマーク」が設定され、ウェブサイトの活用が促されている。高学年の統計資料は出典が記載されていることが多く、資料を丁寧に調べていくことができるようになっている。 ⑧カラーユニバーサルデザインへの配慮を行っている。「むずかしい言葉」を平易な言葉で説明しており、語句でつまづく児童には大きな支援となっている。 ⑨学びのスタイルを揃えることで、児童が学習の流れを理解しやすい。また教科書に登場する児童の会話形式でヒントが示され、考える際の助けとなっている。	
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮されているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね良い。 ②折りたたみのページで、大きな図表から読み取りや比較ができるよう工夫されている。(6年縄文・弥生、同江戸図屏風、5年自動車工業等) ③棒グラフの資料は3年生の後半、折れ線グラフの資料は4年生の後半に登場する等他教科での学習の時期を考慮している。3年生はグラフへの移行を考慮した図が多く、工夫されている。		
イ 教科・種目別の観点	①社会的事象に関する基礎的な知識や技能などを習得させるための工夫や配慮がなされているか。	①まとめがノート形式、話し合い、発表形式等で示されている。学習問題に対応しており、情報量が増えすぎないように配慮されている。 ①「学び方・調べ方コーナー」が「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の項目別にまとめられている。技能を身に付けやすくなるよう配慮がされている。	
	②社会的事象について児童が多面的・多角的に考えられるような工夫や配慮がなされているか。	②「見方・考え方コーナー」で、ものごとを見たり、考えたりする時の視点を提示してあり、考えやすくなっている。 ②「学習問題について考えたことを交流する場面」では、様々な立場の存在を確認するようなしかけがなされている。例えば生産者の思いを踏まえ、消費者として何ができるのかを考えることで、多角的に捉えることの大切さや社会的事象の複雑さに気付けるようにしている。 ②6年生の「日本の政治やくらし→歴史→世界の中の日本」という構成は視野を広げる上で有効である。	
	③学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	③「学習問題」のほかに「さらに考えたい問題」を設定・記述しており、問題をより深く追究していくための工夫がされている。全体として学びを生かすところにウェイトが置かれており、自分の生活とのつながりを感じさせることで主体的な学びを引き出そうとしている。	